

高尾山で 折々の風景を楽しむ

八王子市 陰山 武宏

私達四人は、一昨年の十二月から毎月一回、高尾山薬王院の大本堂に参拝した後、高尾山の山頂まで登山しています。大體お昼前に山頂に到着し、おしゃべりを楽しみながらタイムの時間を過ごした後に下山し、ちよつと遅い昼食を山麓の蕎麦屋で済ませるといふ日程で行っています。

また、毎年お正月には、安全祈願の御護摩もお願いしております。

高尾山は四人とも住まいが近くですので、四人で登山するようになる前にも、時々訪れていたと思います。毎月訪れるようになった切っ掛けは、私が七十歳を過ぎ、体調の不安を抱え、医者から定期的な運動を勧められた時でした。

近所に住む、同じ職場

近な存在として認識していたという事もあります。私と春日さんは昭和四十一年（一九六六年）に入社した時、新入社員教育で薬王院に一泊し、御護摩修行を経験しております。また、村山さんも

院の担当の方々に色々とお世話になったと記憶しております。特に二十二年前の平成五年（一九九三年）の京王線開通八十周年の記念事業の時、薬王院さんとは色々関わりを持たせて

長したその木に会えることも楽しみの一つとなっています。そんな緑の深い薬王院には、今一つ緑の深い人がいます。村山さん、春日さん御兩人と以前同じ職場で働いていた、佐藤泰一郎さんです。現在は御護摩受付所で働いておられますが、登山の際に伺うと、いつも爽やかな笑顔でご挨拶して下さいます。毎月そんな彼にお会いできることも楽しみの一つです。



写真左から春日芳夫氏、陰山武宏氏（筆者）、村山慎一・敦子御夫妻（京王線開通百周年記念事業として、平成二十五年に建立された八尺外置灯籠前にて撮影）

含めて我々三人は、以前

所属していたそれぞれの職場で、毎年安全祈願の御護摩をお願いし、お世話になっておりました。

私個人としまして、京王電鉄の広報担当、総務担当だった時に、薬王

てもらいました。その一つとして、当時の京王電鉄の社長である西山社長と一緒に、山門近くにカエデの木を記念植樹させてもらったことがありました。今では、毎月訪れる度に大きく生

てもらいました。その一つとして、当時の京王電鉄の社長である西山社長と一緒に、山門近くにカエデの木を記念植樹させてもらったことがありました。今では、毎月訪れる度に大きく生

春の新緑の鮮やかさ、四季折々の美しい草花、秋の紅葉に映える山模様、冬の山頂から眺める富士山の素晴らしさ等々、季節毎に違った趣を毎月堪能することが出来ます。また、自然の素晴らし

山の祈り自然の響き

小さな生命に学ぶ

22

法務課 佐藤秀仁

以前、大峯山の奥駈け修行に参加した時の事です。

その年は発達した低気圧の影響で、修行の始まりから終わりまで、強い雨と風に見舞われました。まるで沢登りをしているかのような道中でも、修行を積んだ大先達は平然と「奥駈けしながら水行もできるのだから、感謝せなあかんでえ。」などと豪快に笑うのです。

過酷な状況下においても、清々しさを感ぜさせてくれた一言でありました。後々その心を探ってみますと、それは山伏の大事な教えであったと気付かせてくれるものでした。

やがて講婆世の宿にたどり着くのですが、ここは聖寶の宿とも呼ばれ、聖寶理源大師の鑄像が安

置されています。この鑄像に少しでも手を触れようものなら、忽ち雨が降ると伝えられているのですが、その時ばかりは疑う余地もなく、よほど誰かが撫で回したのではないかと思う程の雨量でした。

そこから先は胸付き八丁と呼ばれ、奥駈け道中にも有数の急坂が延々と続きます。嵐の中、数日かけて古道を歩み続けると、地下足袋はたつぷり水を含み、爪の先も変色してきます。

締め付けられる足の痛みを堪え、喘ぐように急坂を登る時、ふと山肌に咲くスマイレの種類であるう、小さな青い花が雨に打たれてユラユラ揺れている様子が目に映り、その瞬間ハッと我に返るの

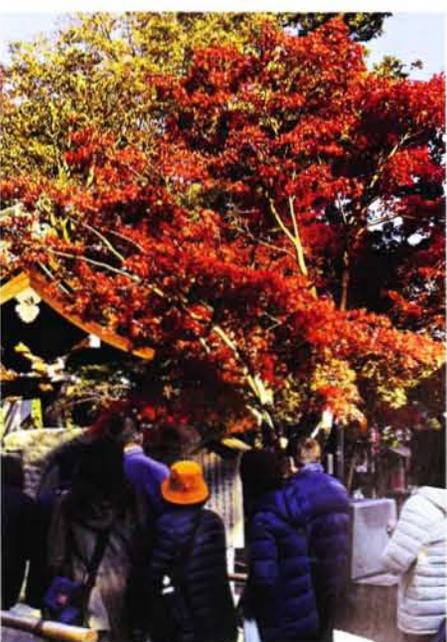
雨が降ろうが風が吹こうが、山肌に生きる小さな生命の姿に、風雨に対する拘りが解けた気がしたので。

修験道では、大自然そのものが仏の姿であり、教えであると説きます。

自分という生命も、スマイレの花と同じ広大無辺なる大自然の営みの一端と知れば、自然を拝す自身も、仏の性質が本来備わっていると言えます。しかし、心中に湧く拘り（煩惱）の迷霧により本質に気付けないが為、あらゆる苦痛の種を自分で時く事となるのです。

ありのままの姿を、そのまま素直に受け入れる心がありようこそが、悟りへと向かう道の出発点であるとするれば、迷いも悟りも、自分の心地次第であり、大先達の言葉通り風雨も又、修行の一環であると言えるのでは

（生きる力SHINGON 第八十一号より転載）



開通八十周年記念植樹のカエデが色づく

さとは別に、年末年始の風情、節分会の華やかさ、春季・秋季大祭の可愛らしい稚児練行、春の遠足シーズンの賑わい等、折々の風景というものがあります。元氣な子供達の笑顔に思わず孫のことを思いだし、顔がほころんでしまいます。山道で外人さんから日本語で「こんにちは」と挨拶され、何となく嬉しくなってしまう。その他の色々な年中行事に登山中に出くわすと、新しい感動を得ることが出来るのも、高尾山へ登る、また違った楽しみの一つだと思えます。

毎月訪れる時は必ずカメラを持参して、四季折々の風情を撮影しています。昨年一年間かけて撮った写真の中から十二枚を選んで、今年の「高尾山マイ・カレンダー」を作成しました。こんなことが出来るのも、毎月訪れるからだと思っております。

これからも健康に注意して、四人揃って毎月薬王院の御本堂に参拝し、「南無飯縄大権現」と唱えて合掌した後、山頂を目指して、歩みを進めたいと思えます。

合掌